

町内会活動の実践例

町内会活動に関する工夫や実践例を挙げました。今回は一般的な例によりましたが、今後も各町内会へ情報共有していきますので、お住いの町内会の工夫やアイデアをご紹介いただける場合は、企画課企画調整係（電話0172-52-2111内線239）までお知らせください。

実践例 1 役員選出時の工夫

役員のなり手がなかなか見つからない場合には、次のような対応が考えられます。各町内で実情は異なりますが、会員同士でよく話し合ったうえで労力等の負担をバランスよく配分することが大切です。

【例①】くじ引き・輪番制にする

公平な決め方なので不満が出にくくなります。意欲に関わらず選ばれるため、前任者が相談役になるなど、組織運営が消極的にならないような工夫が求められます。

【例②】役員の人数を増やす

役員一人当たりの負担が軽減されるので引き受けやすくなります。役員を増やせるだけの人数を確保できない場合は、活動内容を絞り込んで負担そのものを減らすことや、会員以外の意見も広く取り入れ会員数を増やすなどの工夫が必要になります。

その他のアイデア

実践例 2 役員の任期について

【例①】1年等の短期間

「1年だけなら引き受けてもよい」という人は多く、輪番制やくじ引きなどを組み合わせることで、役員のなり手を確保しやすくなります。長期的視点に立つことが難しくなるため、町内会の将来について役員以外の会員も含めた意見交換を行うなどの工夫が必要になります。

【例②】2～3年程度

任期1年に比べ腰を据えて活動に取り組むことができます。任期をずらして役員を半分ずつ交代させると引継ぎや就任への心理的負担が軽減できます。

【例③】任期を設けない

長年の経験や長期的視点に立った組織運営が可能です。事業のマンネリ化や役員交代による運営ノウハウの消失などが起きないように、日頃から会員との意見交換を行い、信頼関係の構築と計画的な後継者育成が求められます。

その他のアイデア

実践例3 加入者確保の工夫

【例①】 加入のメリットを積極的にPRする

誰もが関わる、防災、防犯、衛生など快適なまちづくりに町内会が取り組んでいる点を強調し、理解を求めます。

【例②】 アパート等の不動産会社や大家に協力を求める

ただし、あくまでも任意の協力依頼である点に注意して、①と同様、町内会参加の意義を強調します。

【例③】 若い世代を取り込む工夫をする

若い世代を役員に登用する、情報伝達にホームページやSNSを活用するなど、若い世代の向けの取り組みや意見を取り入れた事業を実施することで、参加しやすい土壌を作ります。

その他のアイデア

実践例4 会費集めの工夫

【例①】 町内会報や連絡網等で会費集めの日程を事前に周知する

不在による「空振り」の回数を減らすことができるほか、おつりのいらぬ額を用意してくれるなど、担当者の負担軽減が期待できます。

【例②】 事前連絡と併せて一括納付のお願いをしておく

毎月集金に出かける回数が減り、担当者の負担が軽減されます。その際、3か月分・半年分・1年分など、いくつか選択肢を設けておけば、住民も対応しやすくなります。

その他のアイデア

実践例5 情報伝達の工夫

【例①】 班の数を増やして受け持ちの件数を減らす

住民が多い町内では、班の数を増やすことで班長一人あたりの負担を軽減することが考えられます。

【例②】 班をいくつかまとめた「組」を設ける

役員と班長の間には何人かの班長をまとめる組長などを設けることで、一人あたりの受け持ちの件数を少なくします。末端の会員までの段階が増えるため、伝達が遅くならないように注意が必要です。

その他のアイデア